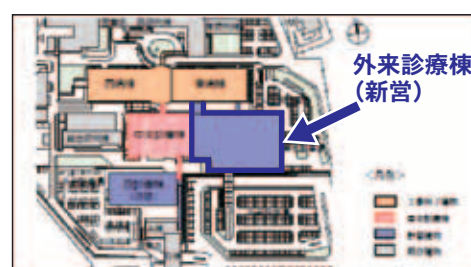


新大病院たより 和

第37号

(標題：中野雄一 元病院長)

新外来棟建築計画について



【新外来棟の概要】

- ・ 地下1階，地上6階建
(地上6階部分にヘリポート)
- ・ 建築面積：4,132.18㎡
- ・ 延べ床面積：21,322.72㎡
- ・ 構造：鉄筋コンクリート造（免震構造）
- ・ 工期：平成22年1月～平成24年4月，
平成24年10月開院予定

本院では、「生命と個人の尊厳を重んじ、質の高い医療を提供するとともに、人間性豊かな医療人を育成する。」を理念に、診療・教育・研究が一体となって機能するバリアフリーホスピタルの構築を目指し病院再開発計画を進めて参りました。

この度、病院再開発第Ⅳ期計画として、新外来棟新営工事に着手しました。この新外来棟には、医科19診療科及び歯科4診療科の外来部門を配置し、これまで以上に医科と歯科との連携と協力体制を構築し、プライマリケアから高度専門医療に至るまでの総合的医療の提供を目指します。

病院ボランティアの方々に感謝状を贈呈

外来における総合案内や小児病棟と海のみえる図書館において長きに渡り活動していただいている病院ボランティアの方々19名に対して、病院長から感謝状と記念品が贈呈されました。

また、贈呈式の後には、畠山病院長、佐藤看護部長らと交え、和やかな雰囲気の中、懇談会が執り行われました。



平成22年 2 月 1 日(月)



懇談会の様子

肝疾患相談センターからのお知らせ



肝疾患相談センター
特任助教(第三内科)
五十嵐 正 人

わが国の肝がんによる死亡者数は年間3万人あまりにのぼり、部位別がん死亡数は、男性では第3位、女性では第4位が肝がんです。一方わが国の肝がんは、その多くがウイルス性の慢性肝炎や肝硬変を母地として発生するのが特徴で、ウイルス性肝炎の克服が直接的

に肝がん予防につながります。これを踏まえて国は様々な肝炎対策事業を推進していますが、その一環として昨年、本院が新潟県の肝疾患診療連携拠点病院の指定を受けました。肝疾患診療連携拠点病院というのは、肝炎や肝がんの専門的な診療を行うとともに、各都道府県における肝疾患診療ネットワークの中心となり、医療機関・患者さま双方への情報配信の拠点となる病院のことです。現在当院では拠点病院の機能を担うべく、患者さまとの相談や情報支援の窓口として「肝疾患相談センター」の開設準備を行っ

ております。肝臓内科医1名、医療ソーシャルワーカー1名、事務員1名の3人体制で張り切って準備に当たっておりますが、何かと不慣れなことが多く、オープンに際しては、一抹の不安がないわけではありません。皆さまのお力をお借りしながらよりよい業務を目指して努力して参りますので、ご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。現在のところ電話相談を業務の主体として準備を進めておりますが、将来的にはホームページを開設し、電子メール等によるご相談にも対応する方向で検討を行っております。

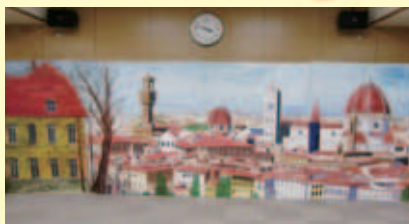
近年、ペグインターフェロンや各種抗ウイルス薬の開発によって、ウイルス肝炎は「治癒が期待できる病気」になりつつあります。その一方で治療法は複雑化しており、患者さまの混乱を招くことがあるかも知れません。皆さまのご健康のために、専門スタッフが的確な情報を解りやすく提供していこうと考えておりますので、肝疾患に関して疑問に思われたことは、お気軽に当センターにご相談いただければ幸いです。

～美しいハーモニーが病棟を包む～

新大教育学部の合唱団による音楽会を開催♪

冬を迎えるこの季節に、患者さんに温かい歌声を届けたいと、新大教育学部の合唱団を迎え、音楽会を開催しました。

学生さんが作成した壮大な舞台芸術を背景に、聴きなじみのある唱歌などが披露され、会場に集まった100名近い患者さんやご家族は、その美しいハーモニーにうっとりとし、聴き入っていました。



イタリアの風景をイメージした舞台芸術

日時：平成21年11月28日(土)

場所：病棟大会議室



冬季限定 病棟前広場のイルミネーション

病棟前の広場に、イルミネーションが点灯されました。

(財)協和会の協力により年々規模が大きくなり、すっかり本院の冬の風物詩として定着してきました。

病室からも光の芸術が見下ろすことができ、寒い雪の降る夜にも温かい光が灯ることで患者さんや付き添いのご家族の方から大変喜んでいただきました。

来シーズンも楽しみにしててくださいね。



中央診療施設紹介 ⑧

光学医療診療部



光学医療診療部副部長
成 澤 林太郎

当診療部は「中央内視鏡部門」を経て、平成13年度に「光学医療診療部」となり、ほぼ同時期に現在の西病棟2階に移りました。

当診療部の特徴は、食道・胃・腸の内視鏡のみならず、胆管・膵管の内視鏡、気管や気管支の内視鏡、喉の内視鏡なども行ない、消化器内科、呼吸器内科、消化器外科、呼吸器外科、小児外科、耳鼻科と、多くの科の多くの医師が内視鏡の診療に携わっていることです。また、当診療部は内視鏡写真をはじめとした内視鏡に関する資料を大切に保存してきましたので、昭和45年4月以降の40年間に当診療部で内視鏡検査や治療を受けられた方全ての資料がすぐに利用できる形で保存されており、日々の診療に役立てられています。一方、少しでも楽に検査や治療を受けていただきたいと考え、当診療部独自のBGMを常に流し、音楽によるリラクゼーションを図っています。

当診療部では現在年間7,600例余りの検査や治療が

行われており、ここ5年間を見ると毎年約10%ずつ増えています。そのなかでも早期食道がん、早期胃がん、早期大腸がんなどの内視鏡による治療例の増加は顕著で、現在年間計約400例に上り、旧国立大学附属病院の中でも有数を誇ります。特に、早期食道がんの治療例数は、一般病院を含めた日本全国の病院のなかでも、5本の指に入るほどです。

昨年の春、念願の最新の内視鏡機器が数多く導入されたこともあり、スタッフ一同気持ちを新たにし、より安全で、より高度で、より迅速で、より正確で、そしてより優しい内視鏡医療を目指して、日々精進を重ねています。



早期胃がんに対する最新の内視鏡治療の様子



病棟にサンタさんがやってきました。

日時：平成21年12月22日(火)



毎年恒例となりました院内クリスマス企画として、サンタやトナカイ、クリスマスツリーに扮した職員が各病棟を訪問し、入院患者さん一人一人にクリスマスプレゼントを手渡しました。

サンタさんたちの突然の訪問に子どもたちはビックリ。握手や記念写真を求める患者さんも多く、ほのほのとした雰囲気の中、職員と一緒にクリスマス気分を満喫していました。



大きなトナカイさんにビックリ！



地域のために僕らができること。

外来玄関前に並べられた植栽は、本学医学部の学生ボランティアにより、患者さんの療養環境向上のため定期的に植え替えが行われております。

四季を通じて色彩豊かな花々が、患者さんや職員の目を楽しませてくれています。



病気の基礎知識 8



新潟大学大学院
医歯学総合研究科
腎臓病医療センター
特任教授 丸山弘樹

CKDは、自覚症状がないまま腎臓の働きが徐々に低下する病気です。糖尿病、高血圧、脂質異常症、肥満、メタボリックシンドロームなどの生活習慣病や慢性腎炎が原因です。日本には約1300万人のCKD患者さんがいると推定されています。CKDは、心筋梗塞、脳梗塞などの心血管疾患を発症するリスクになりますし、進行すると透析医療（腹膜透析、血液透析）あるいは腎移植が必要になります。

腎臓の代表的な働きは、血液中にある老廃物など（ごみ）を尿として捨てることです。家庭生活でのごみ出しになぞらえて、腎臓の働きを考えてみましょう。皆さんは、ごみと必要なもの（宝物）と分別して捨てているはずです。さらに、こまめに捨てて、貯まらないようにしていると思います。

血液中では血球や蛋白などの宝物とごみが混ざっています。腎臓は、これらを分別してごみを捨てています。それも、ごみが身体に貯まらないように、大きい速度でごみを処理しています。腎臓（糸球体）では血液をろ過して、毎日約150Lもの原尿を作っています。原尿の水分のほとんどが腎臓（尿細管）で吸収されて、体外に捨てられるのは約1.5Lに抑えられます。

ごみ捨ての状況を調べれば、自覚症状がないCKDを早期に発見できます。

慢性腎臓病(chronic kidney disease,CKD)をご存知ですか？

「腎臓が宝物まで尿として捨てていないか？」

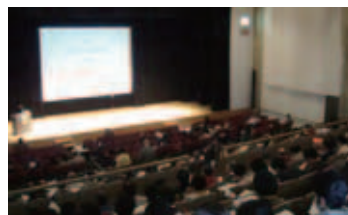
尿検査で、ごみの分別能を調べます。尿中に蛋白、赤血球を捨てている状態（蛋白尿、血尿）は異常です。

「身体にごみを貯めていないか？」

血液検査で、ごみの代表としてクレアチニンの値を測定します。クレアチニン値、性別、年齢の3つの情報から、腎臓のごみ処理能である推算糸球体ろ過率を簡単に算出できます。これが低下していれば、腎臓が本来の調子でないことが分かります。

かかりつけ医などの医療機関を受診すれば、尿検査、血液検査を受けられます。自覚症状がない早期のCKDを発見するコツは、自分の腎臓に目を向けて、医療機関を受診して検査を受けることです。CKDでは、かかりつけ医と腎臓専門医との病診連携を活用して、CKDの進行度に応じた治療を受けることが大切です。

ご自分がCKDであることに気づいていない、潜在的なCKD患者さんが多いのです。そこで、私たちは、2007年から、CKDの医療啓発活動を推進しています。その一環として、新潟県民にCKDについて知ってもらえるように、県内各地でCKDの医療を提供しているスタッフとともに、地域密着、手作りの市民公開セミナーを開催しています。これまで10回開催しました（写真）。2010年も10月2日（土）、新潟ユニゾンプラザで開催します。お待ちしております。



新潟大学&新潟市民病院
合同市民公開セミナー

2009年10月24日
於：新潟ユニゾンプラザ
来場者359名

本院の理念・目標

◆理念◆

- ・生命と個人の尊厳を重んじ、質の高い医療を提供するとともに、人間性豊かな医療人を育成します

◆目標◆

- ・患者様本位の安全で安心できる医療を提供します
- ・豊かな人間性と高い倫理性を備えた質の高い医療人を育成します
- ・研究成果を反映した高度で先進的な医療を実践します
- ・地域連携を推進するとともに地域の医療水準の向上に貢献します
- ・病院運営の適正化と効率化を促進します

患者様の権利と責任

◆患者様の権利と責任◆

1. 個人の尊厳が尊重され、良質で公平な医療を受けることができます
2. 病状、治療、看護等について十分な説明と情報提供を受けることができます
3. 自分が受ける医療について自分の意思で決めることができます
4. プライバシーが尊重され、医療の過程で得られた個人情報保護されます
5. 医療者と協力し、自らの医療に積極的に参加する責任があります

新大病院たより「和」のバックナンバーは本院ホームページ
(http://www.nuh.niigata-u.ac.jp/byouin/08_koho.html) をご覧下さい。

発行 新潟大学医歯学総合病院広報委員会

(お問い合わせは総務課総務係 電話 025-227-2407,2408まで)